

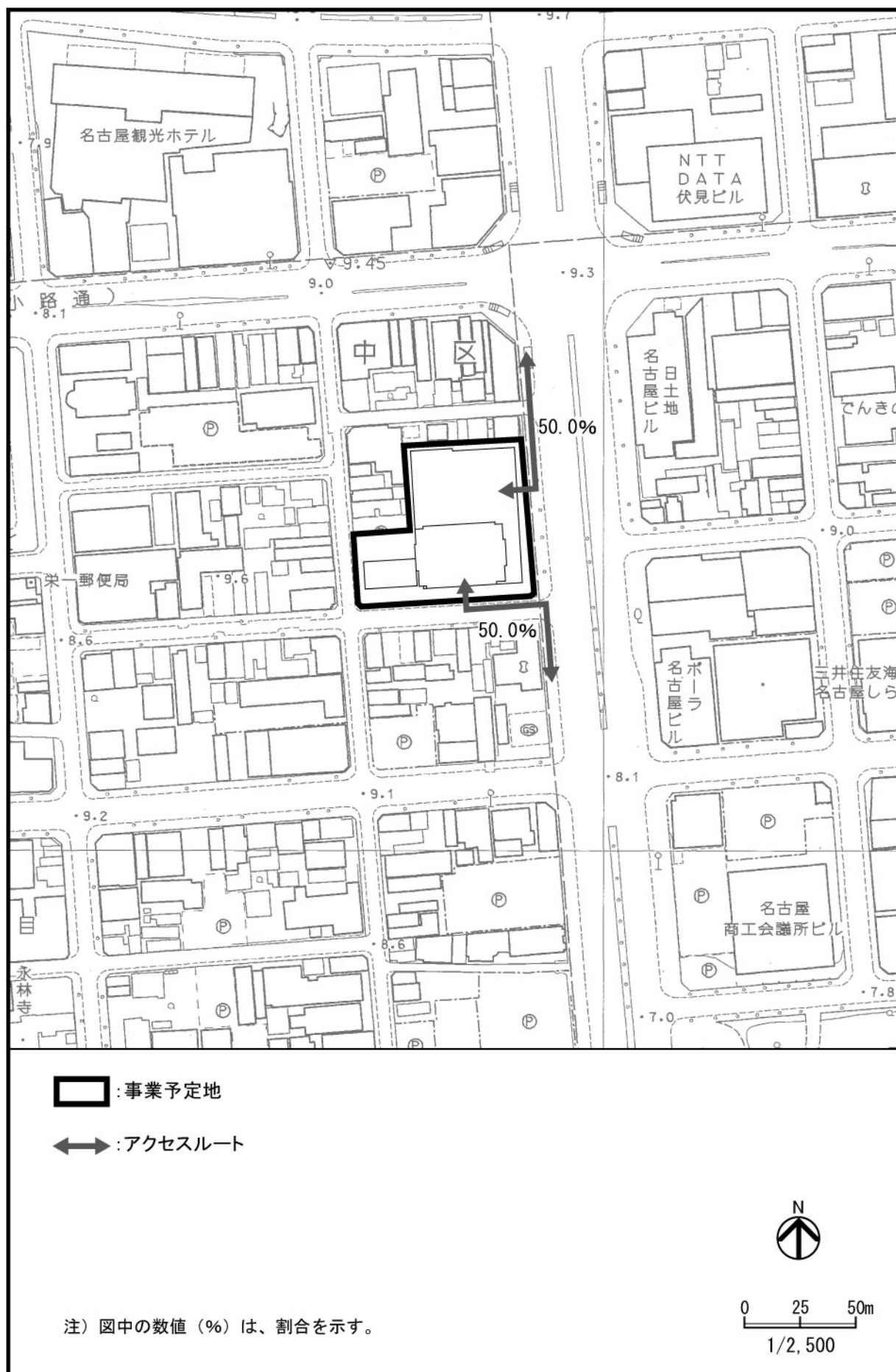


図 - 3 (5) 歩行者のアクセスルート (バス：店舗)

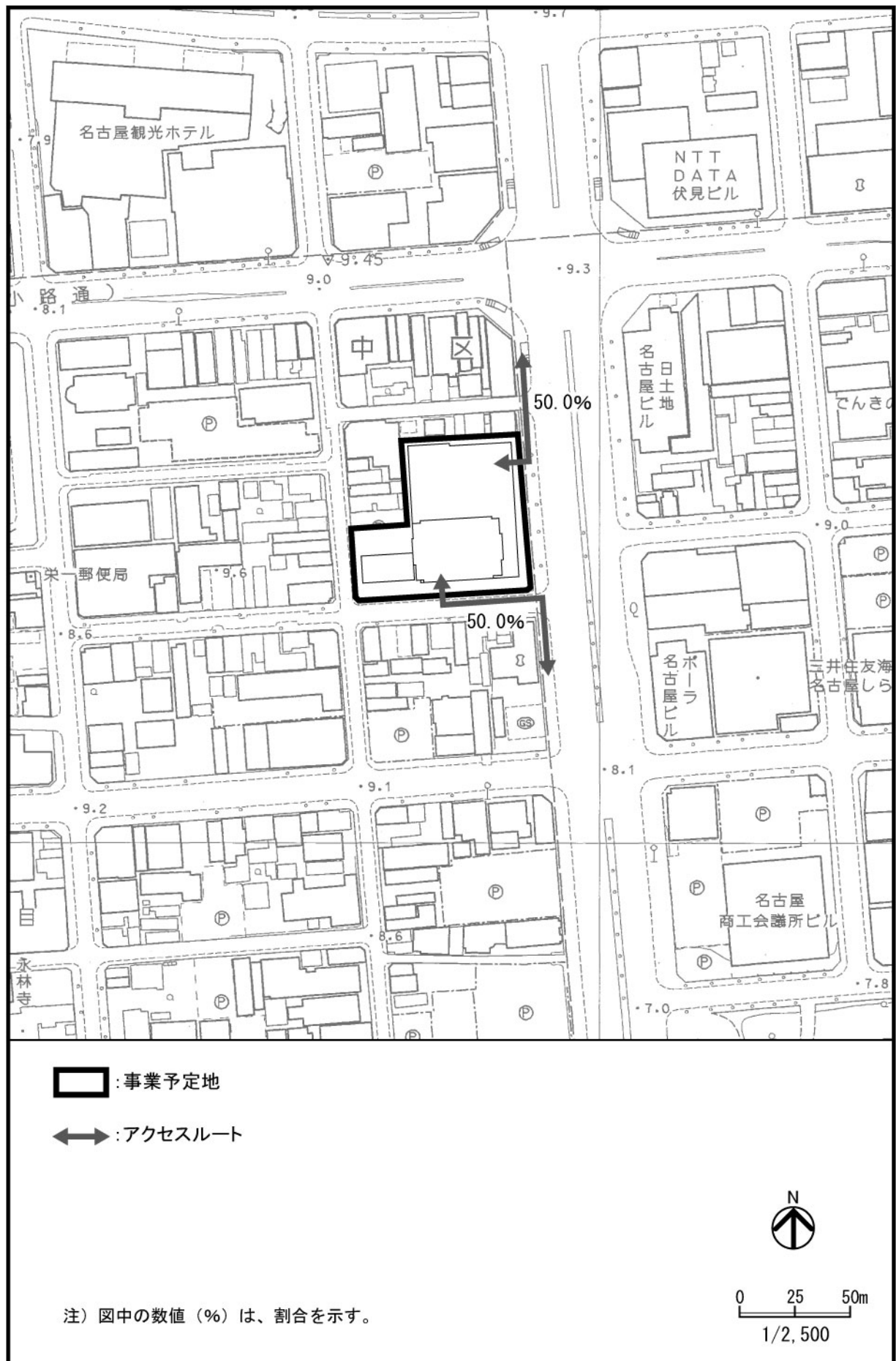


図 - 3 (6) 歩行者のアクセスルート (バス：共同住宅)

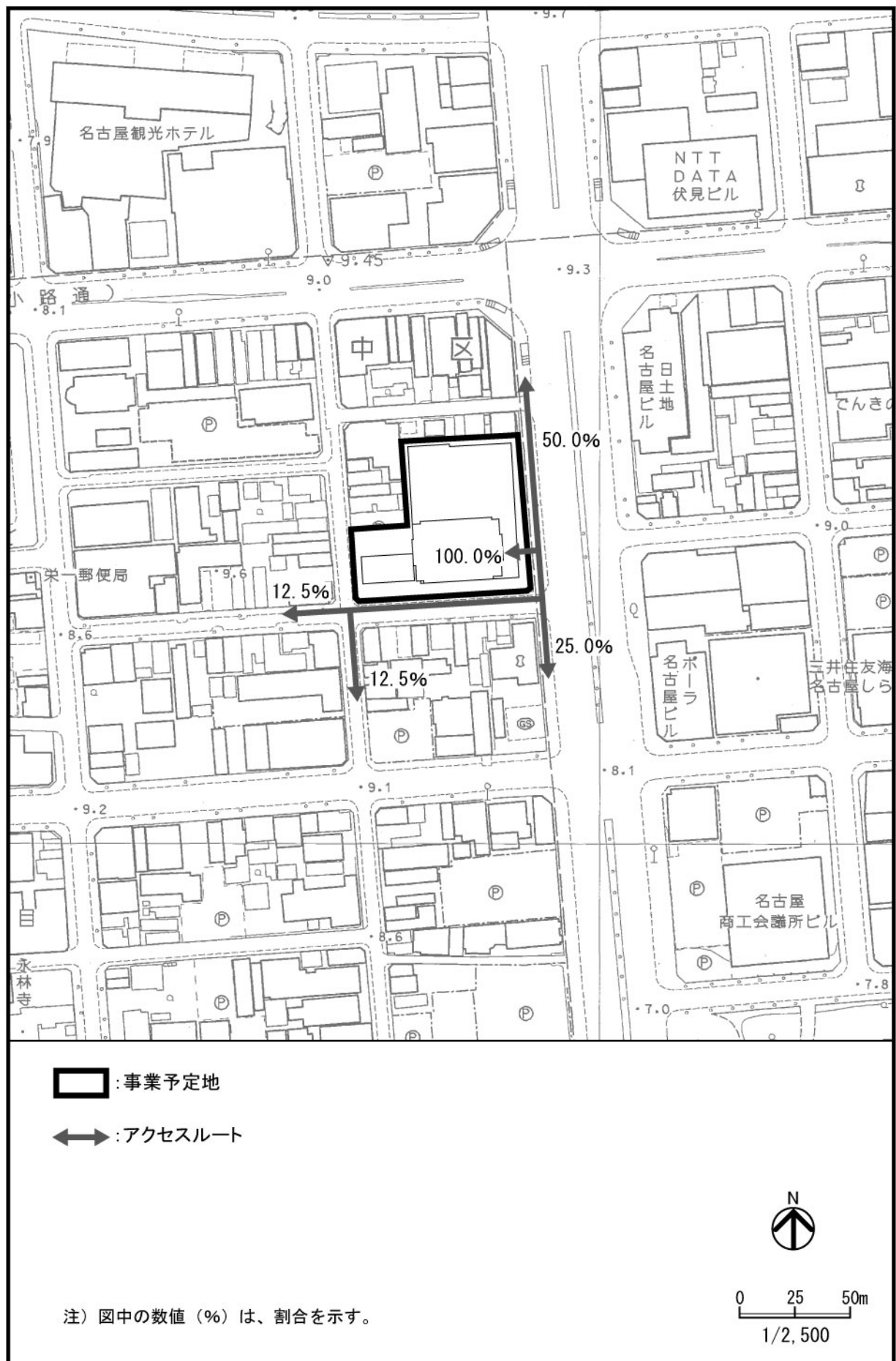


図 - 3 (7) 歩行者のアクセスルート (徒歩：劇場)

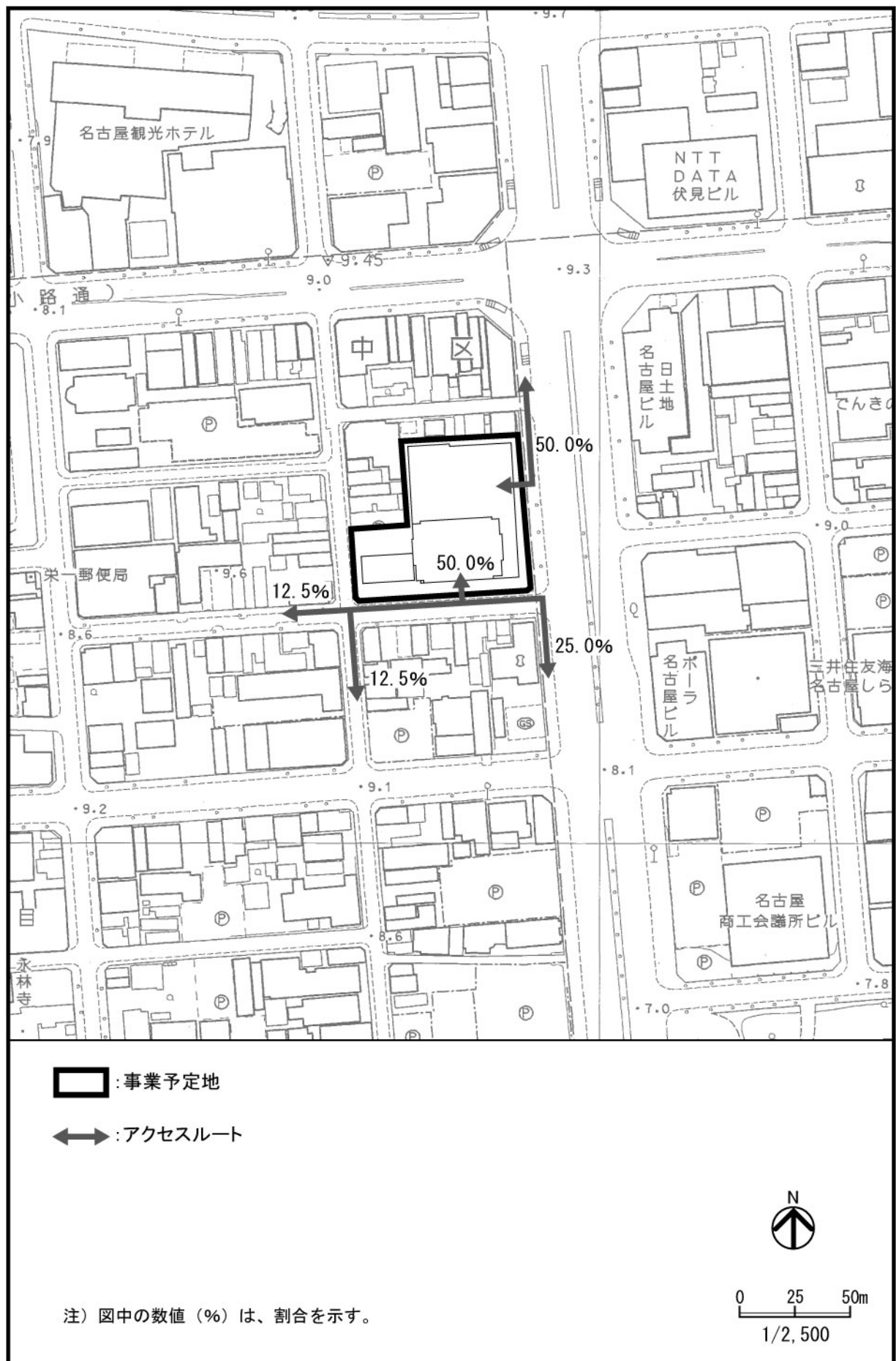


図 - 3 (8) 歩行者のアクセスルート (徒歩：店舗)

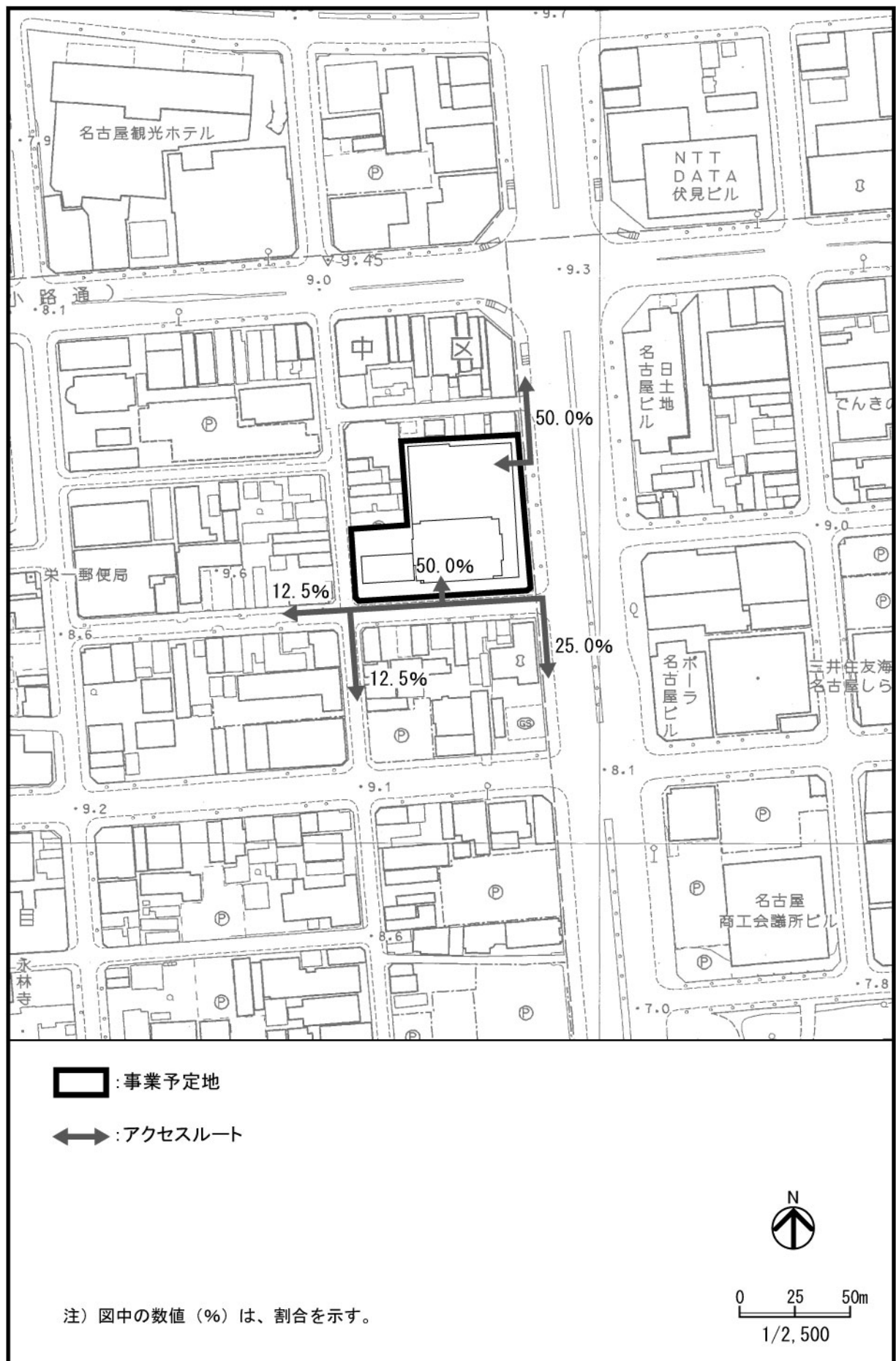


図 - 3 (9) 歩行者のアクセスルート (徒歩：共同住宅)

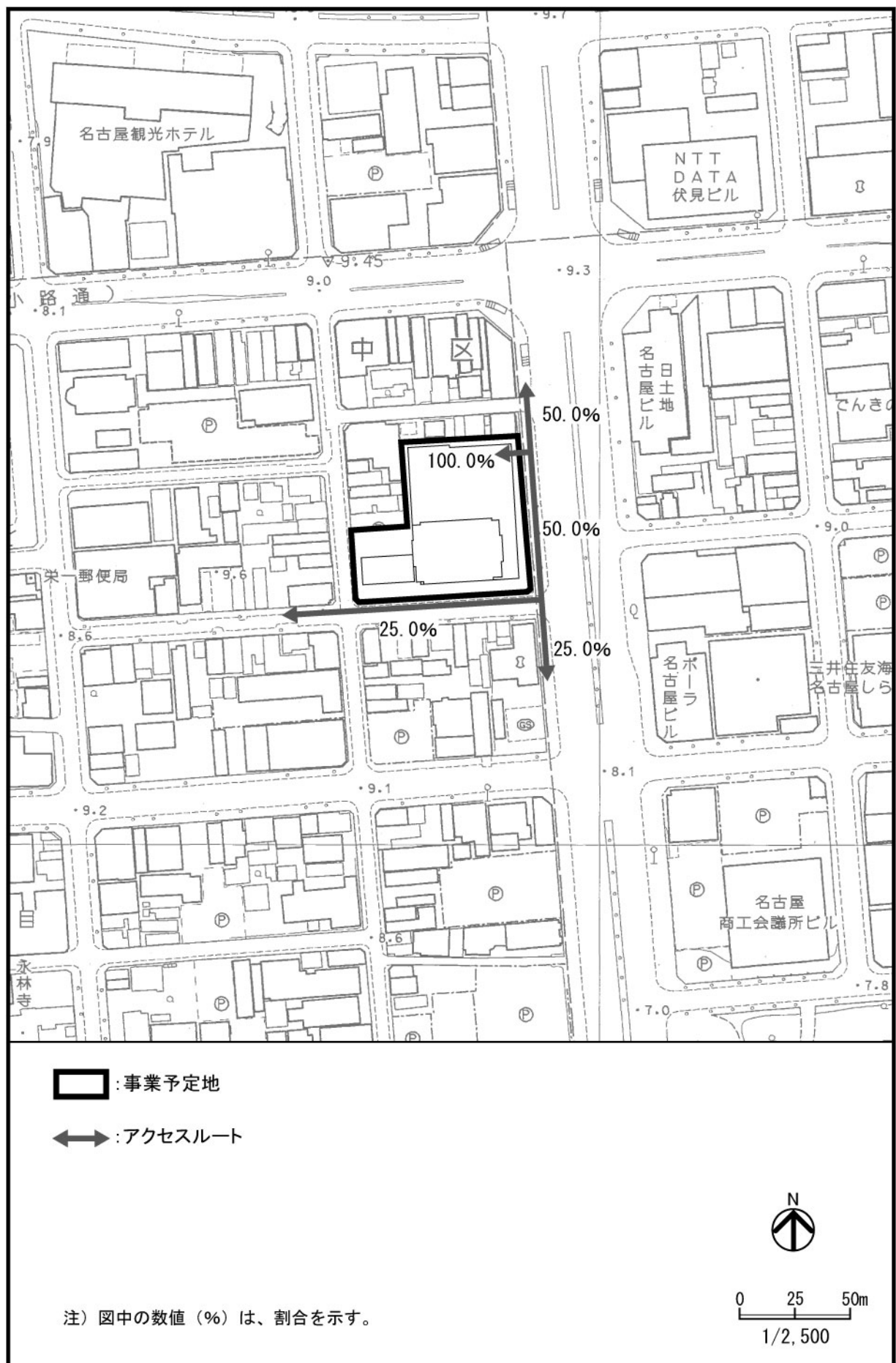


図 - 4 (1) 自転車のアクセスルート (劇場・店舗)

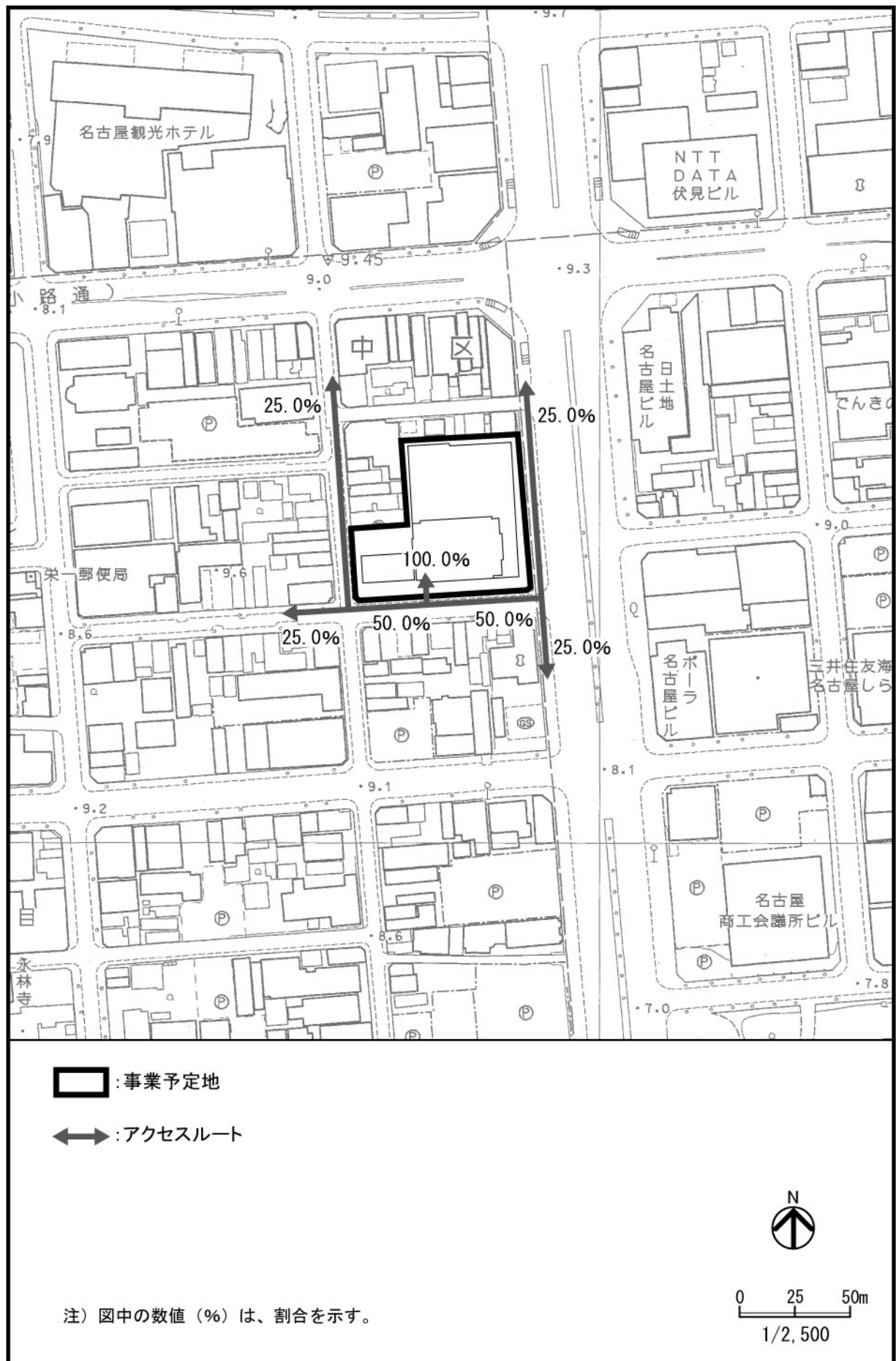
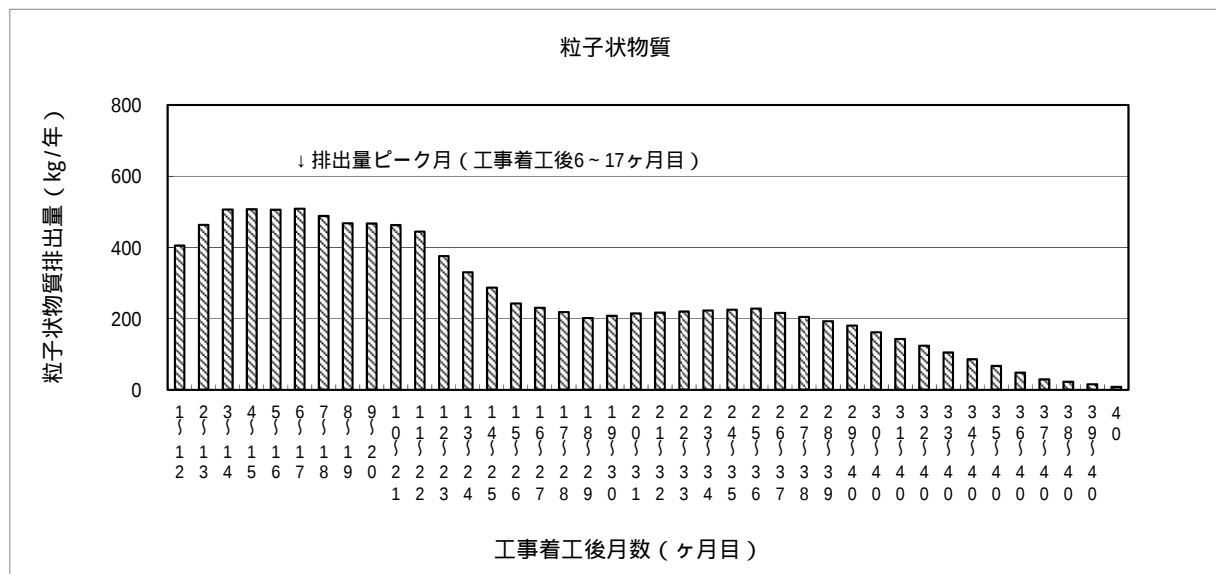
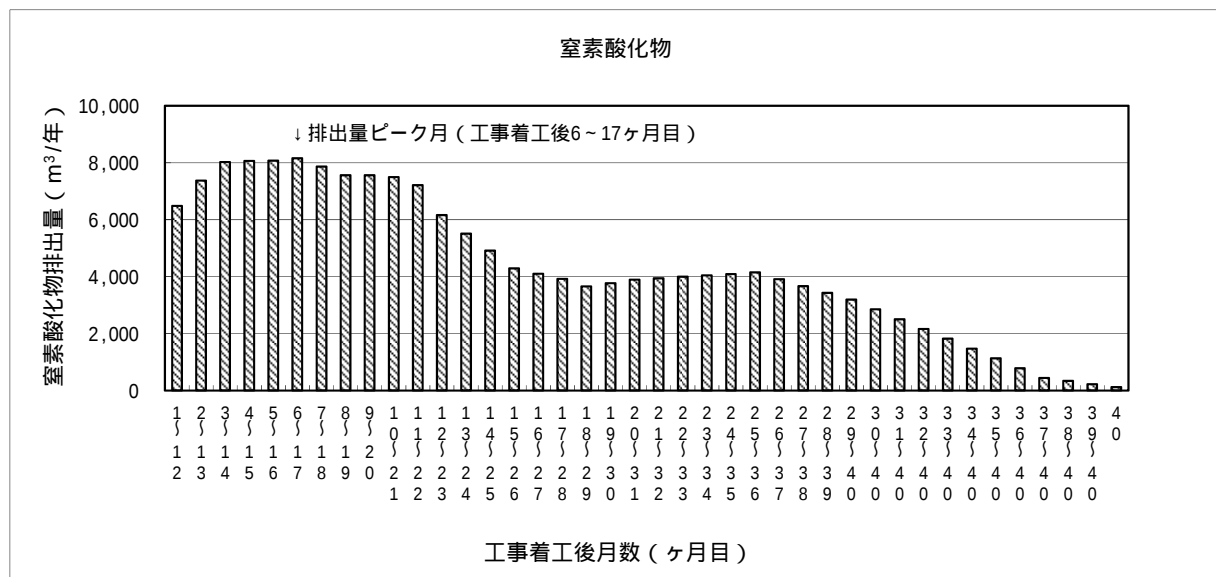


図 - 4 (2) 自転車のアクセスルート (共同住宅)

1. 大気質

建設機械の稼働による窒素酸化物及び粒子状物質の年間排出量（12 ヶ月積算値）は、以下に示すとおりである。

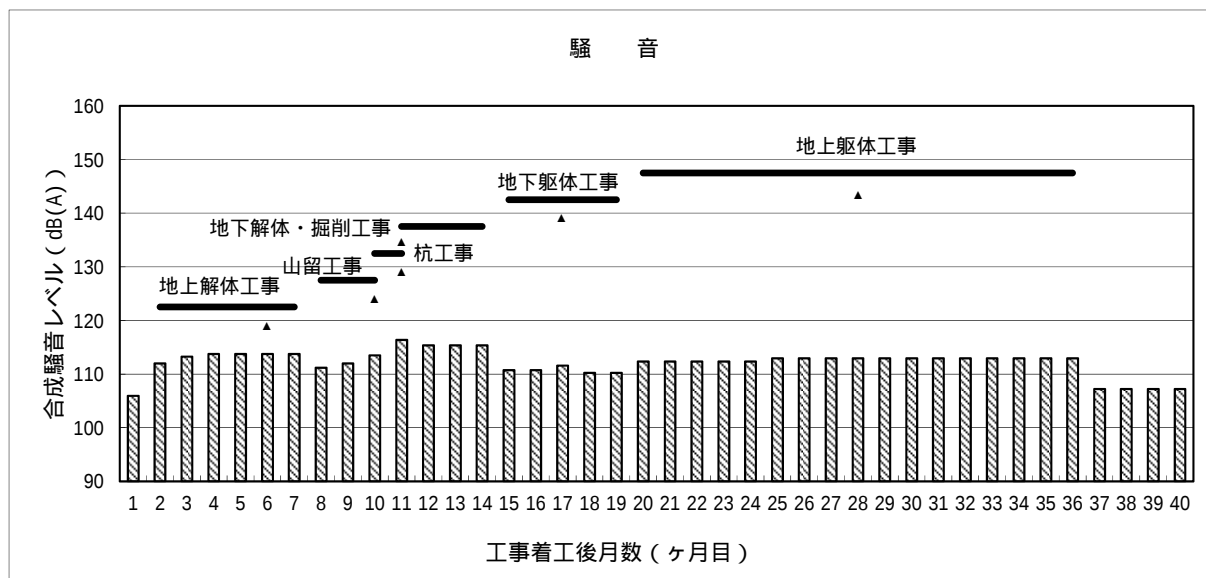
予測時期は、両物質とも、年間排出量が最大となる工事着工後 6～17 ヶ月目とした。



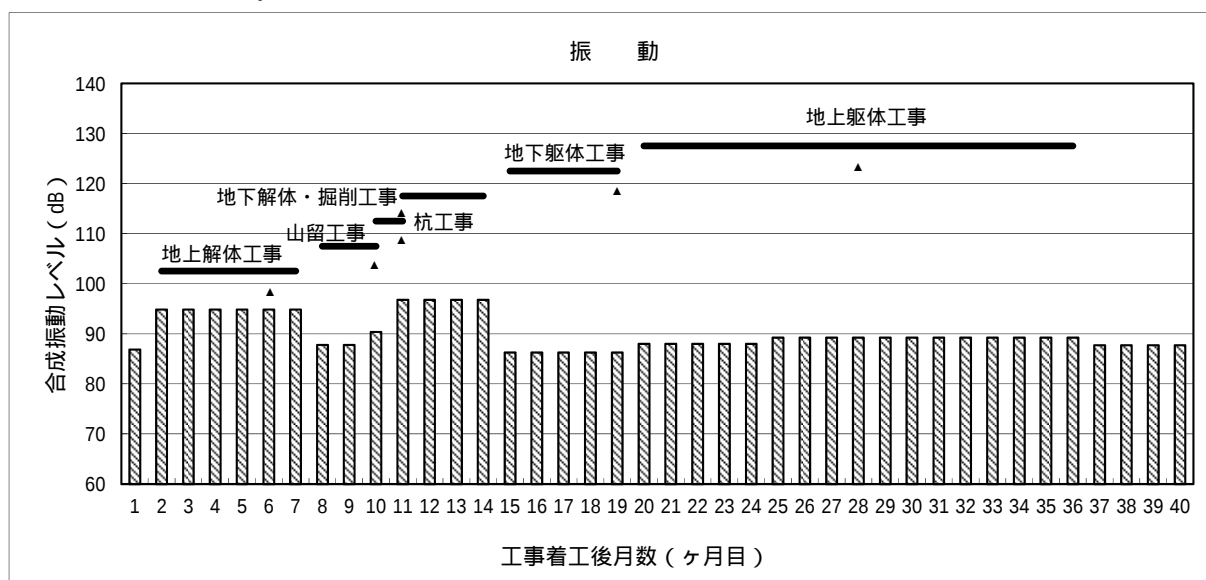
注）排出係数は、「道路環境影響評価の技術手法（平成 24 年度版）」（国土交通省、独立行政法人 土木研究所，平成 25 年）に基づき算出した。

2. 騒音・振動

各月における建設機械の稼働による合成騒音レベル及び合成振動レベルは、以下に示すとおりである。



- 注)1:各建設機械の稼働による騒音レベルのベースを合わせるために、各建設機械の音圧レベルからA特性パワーレベルに換算し、これにより合成騒音レベルを算出した。
 2:各建設機械の音圧レベルは、資料4-3(p.106)に示すとおりである。
 3:グラフ中の横棒は、各工種の施工期間を示す。
 4:グラフ中の「▲」は、各工種の施工期間中における最大値が算出される箇所を示す。
 5:グラフの数値は、建設機械のパワーレベルを合成したものであり、事業予定地周辺の予測結果を示すものではない。



- 注)1:各建設機械の稼働による振動レベルのベースを合わせるために、振動源より基準点までの距離が1mにおける振動レベルに換算し、これにより、合成振動レベルを算出した。
 2:各建設機械の振動レベルは、本編第2部 第3章 3-1-3 (4) イ「建設機械の基準点における振動レベル」(本編 p.143)に示すとおりである。
 3:グラフ中の横棒は、各工種の施工期間を示す。
 4:グラフ中の「▲」は、各工種の施工期間中における最大値が算出される箇所を示す。
 5:グラフの数値は、建設機械の振動レベルを合成したものであり、事業予定地周辺の予測結果を示すものではない。

予測時期は、各工種の施工期間において、それぞれ合成騒音レベル及び合成振動レベルが最大となる以下の時期とした。

環境要素	工 事 内 容	予 測 時 期
騒 音	地上解体工事	工事着工後 6 ヶ月目
	山留工事	" 10 ヶ月目
	杭・地下解体・掘削工事	" 11 ヶ月目
	地下躯体工事	" 17 ヶ月目
	地上躯体工事	" 28 ヶ月目
振 動	地上解体工事	" 6 ヶ月目
	山留・杭工事	" 10 ヶ月目
	杭・地下解体・掘削工事	" 11 ヶ月目
	地下躯体工事	" 19 ヶ月目
	地上躯体工事	" 28 ヶ月目

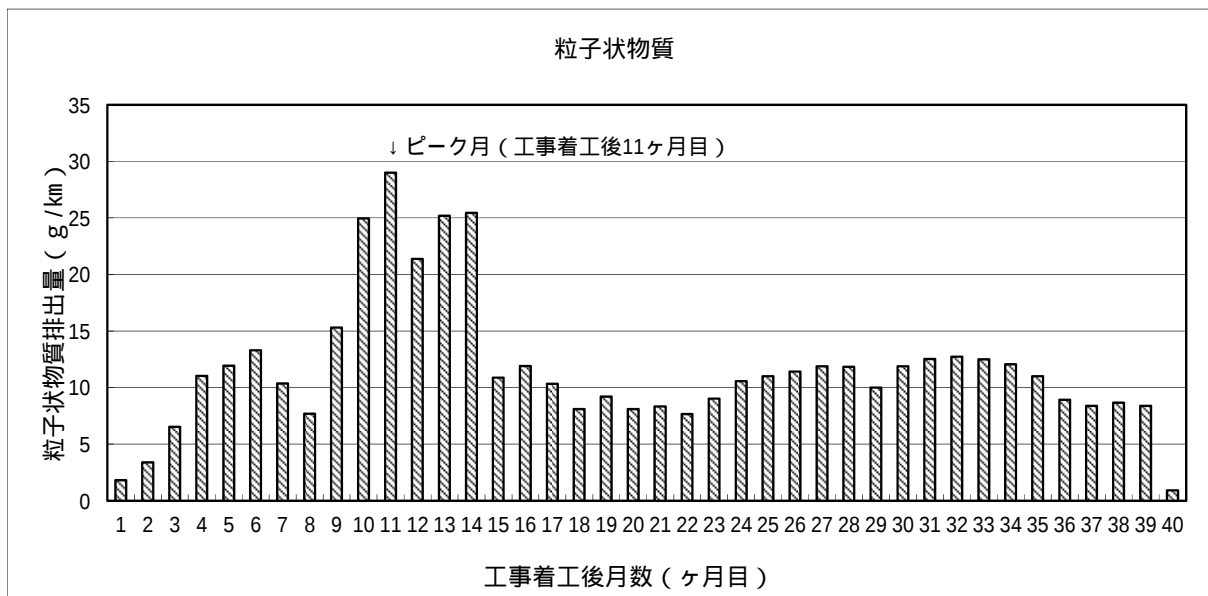
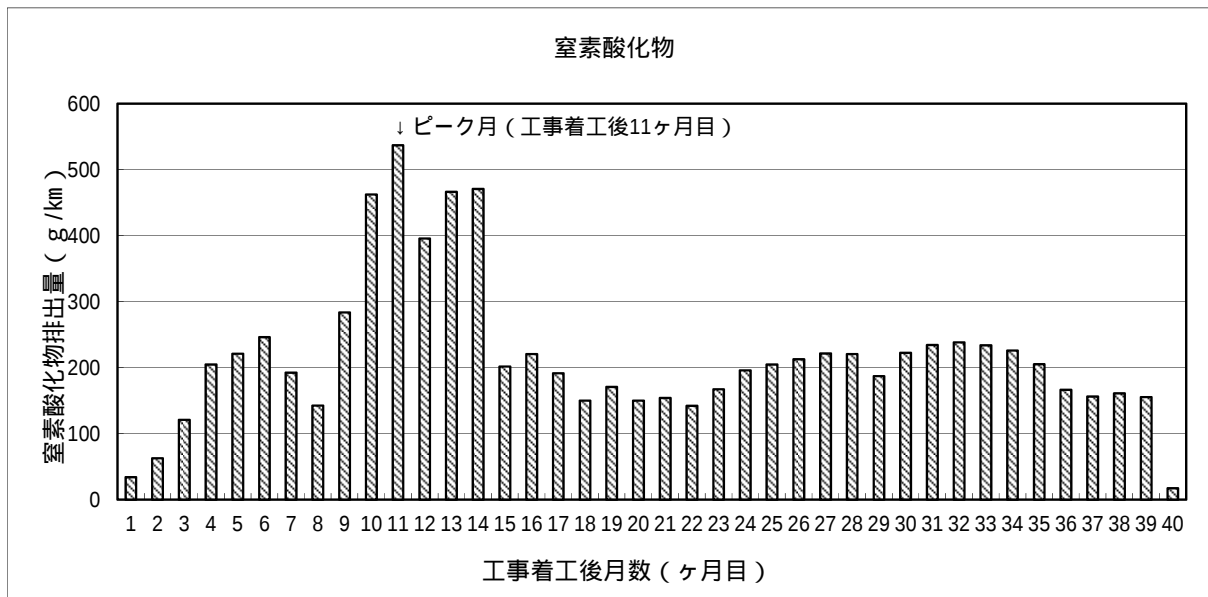
資料 1 - 3 工事関係車両の走行による予測時期

[本編 p.17,100,109,132,154,282 参照]

1. 大気質

工事関係車両の走行による窒素酸化物及び粒子状物質の月別排出量は、以下に示すとおりである。

予測時期は、両物質とも、排出量が最大となる工事着工後 11 ヶ月目とした。



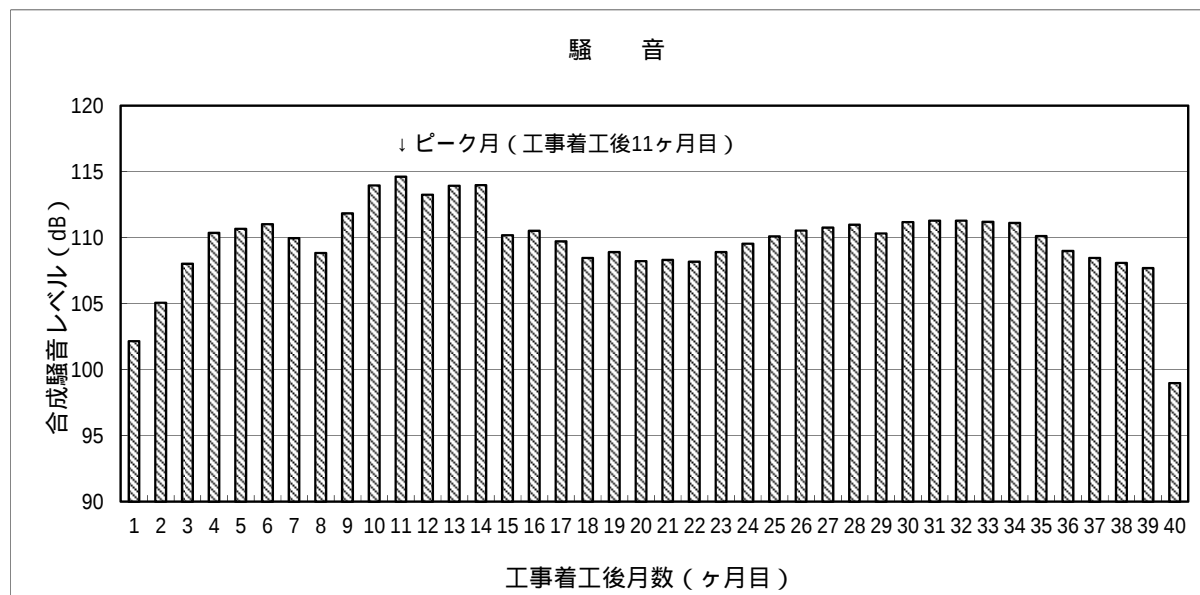
注)1:排出係数は、「道路環境影響評価等に用いる自動車排出係数の算定根拠(平成22年度版)」(国土交通省,平成24年)に示す平均走行速度 60 km/時の数値を用いた。

2:排出量は、車種別工事関係車両台数及び排出係数を用いて算出した。

2. 騒 音

工事関係車両の走行による合成騒音レベルは、以下に示すとおりである。

予測時期は、合成騒音レベルが最大となる工事着工後 11 ヶ月目とした。



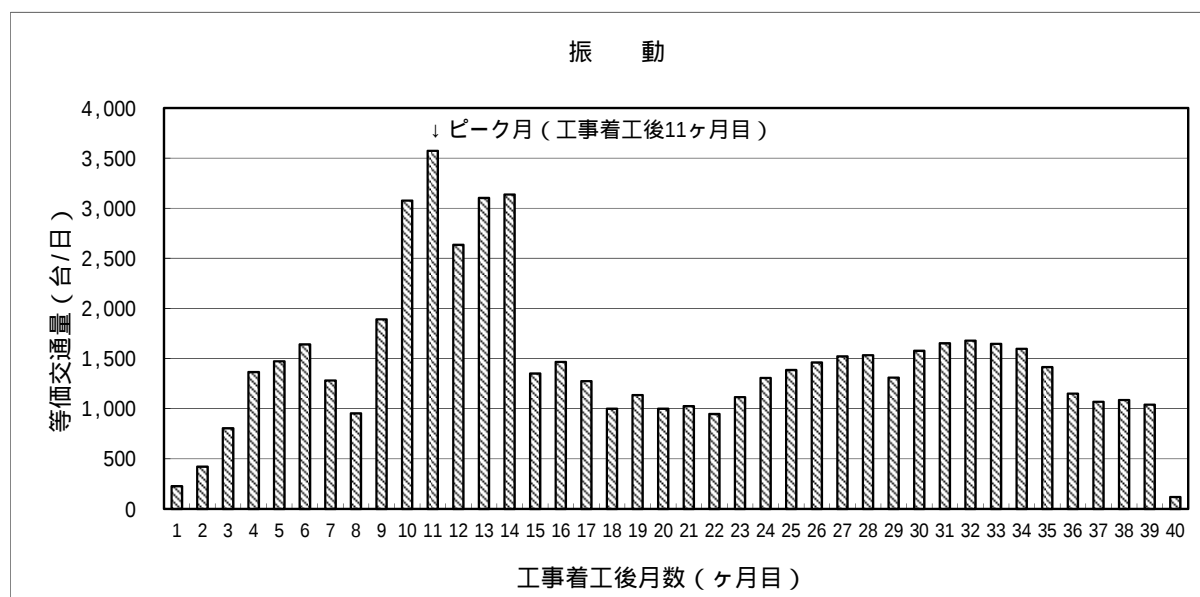
注)1:車種別パワーレベルは、ASJ RTN-Model 2008 に示す大型車 90.0dB、中型車 87.1dB、小型貨物車 83.2dB、乗用車 82.0dB を用いた。

2:合成騒音レベルは、車種別工事関係車両台数及びパワーレベルを用いて算出した。

3. 振 動

工事関係車両の走行による等価交通量は、以下に示すとおりである。

予測時期は、等価交通量が最大となる工事着工後 11 ヶ月目とした。



注) 等価交通量は、旧建設省土木研究所の提案式に基づき算出した。

4．安全性

工事関係車両の走行台数は、以下に示すとおりである。

予測時期は、走行台数が最大となる工事着工後 11 ヶ月目とした。

